

# 大阪・関西万博について知っておきたいこと



こばら かずたか  
96年 日本生命保険相互会社入社  
主に資産運用部門にて融資関連部署を歴任  
22年 ニッセイ基礎研究所



総合政策研究部 主任研究員 小原 一隆  
kobara@nli-research.co.jp

2025年大阪・関西万博の開催まで2年を切った。2025年4月13日から10月13日まで、大阪市夢洲<sup>ゆめしま</sup>で開催される予定だ。

## 1—— 万博とは何か

万博とは、パリ本拠の政府間組織である博覧会国際事務局（BIE）の承認のもと、国際博覧会条約に基づき開催される国際博覧会を指す。第1回は、1851年にロンドンで開催された。産業革命を背景にし、英国の「世界の工場」としての力を誇示するものであった。万博というコンセプトは好評を博し、その後各国で開催された。1988年の条約改正前の旧分類では、一般博覧会（「一般博」）と特別博覧会（「特別博」）が存在した。現在は、登録博覧会（「登録博」）と認定博覧会（「認定博」）が存在する。登録博と認定博では、開催期間やテーマの範囲等が前者の方が大きい。アジア初の万博である1970年日本万国博覧会（大阪万博）は、6,400万人を超える来場者を集め、20世紀で最も多くの人々が訪れた万博となった。

BIEではこれとは別途、装飾美術及び現代建築に関するミラノ・トリエンナーレおよび国際園芸博覧会の一部（認定博としての取扱）も所管している。

また、オリンピック・パラリンピックとは異なり、主催者は都市ではなく政府である。

大阪・関西万博の主催者は2025年日本国際博覧会協会（「協会」）で、日本国政府が協会の開催国としての義務履行を保証する。

## 2—— 開催・参加の利点は何なのか

万博は、開催国にとっては、自国の成果のアピールや、経済発展・協力、自国文化の豊かさや近代文明への貢献を訴求できるまたとない場である。また、開催都市や国の、質的・量的な経済発展やブランディングに繋がる。参加国や企業は、自国の景観や歴史的遺産、科学技術、未来へのビジョン等、国の全体像を示し、グローバルな課題に関する交流の場となる。

大阪・関西万博では、人・モノを呼び寄せる求心力と発信力が万博にあることから、大阪・関西および日本の成長を持続させる起爆剤にすることを開催目的としている。また、万博を未来社会の実験場と位置づけ、展示・観覧に加え、アイデアを共創する場としている。これらを通じ、SDGs達成への貢献や、国家戦略であるSociety5.0の実現を目指す。空飛ぶクルマや全面電子決済、EXPO COMMONS（サイバー万博）等はその例と言えよう。

## 3—— 収支はどうか

万博は非営利とされるものの、当然に収支は黒字である方が良い。2000年以降の登録博で、赤字と判明しているのは2000

年のハノーバー万博のみである。大阪・関西万博では昨今の物価上昇を背景に資材価格その他の費用は大きな上振れが想定される。来場者を多く吸引する等で収入を確保することが求められる。

## 4—— 不可抗力による中止・延期など

2020年ドバイ万博においては、新型コロナウイルス感染症への対応で、開催は1年間延期された。日程変更等による経済的不利益は開催国が補償せねばならないが、BIEが不可抗力と認めた場合はその限りではない。大阪・関西万博でも同様に規定されている。

## 5—— おわりに

万博の理念や目的に相応しいコンテンツが来場者の感動体験に繋がれば、より多くの来場を呼び、成功に近づくことであろう。そのためには、残り2年間の準備が重要であることは論を俟たない。既に協会を中心に官民挙げてPR活動を展開しているが、国民一般の大阪・関西万博への注目はこれからだ。

大阪や関西地域の持つ底力や未来への可能性を世界に知らしめ、もって日本の経済力や魅力が更に高まること、開催後のレガシーが未来に良い影響を与え続けられることが期待される。

【図表1】日本開催(予定)の万博

資料：BIEより筆者作成

開催年	名称	通称	区分	テーマ
1970	日本万国博覧会	大阪万博	一般博	人類の進歩と調和
1975	沖縄国際海洋博覧会	沖縄海洋博	特別博	海—その望ましい未来
1985	国際科学技術博覧会	つくば万博	特別博	人間・居住・環境と科学技術
1990	国際花と緑の博覧会	大阪花の万博	特別博	自然と人間との共生
2005	2005年日本国際博覧会	愛・地球博	登録博	自然の叡智
2025予	2025年日本国際博覧会	大阪・関西万博	登録博	いのち輝く未来社会のデザイン
2027予	横浜国際園芸博覧会	—	認定博	幸せを創る明日の風景

【図表2】2000年以降の万博の収支(登録博)

資料：BIE、各種報道より筆者作成 \*2023年3月時点

開催年	国	都市	動員数(万人)	開幕前見込数(万人)	収支(億円)	参加国数(ヶ国)
2000	ドイツ	ハノーバー	1,810	4,000	▲1,200	155
2005	日本	愛知	2,204	1,500	+129	121
2010	中国	上海	7,308	7,000	+126	246
2015	イタリア	ミラノ	2,150	2,000	+32	139
2021	UAE	ドバイ	2,410	2,500	—	192
2025	日本	大阪・関西	—	2,820	—	153*